

「過去問題」良問ならOK

岐阜大学(岐阜市柳戸)は、全国の国公私立大学で過去に出題された入試問題を、大学間で自由に活用できる制度の導入を目指している。優れた問題を出題できる環境整備のためで、全国の大学に呼び掛けたところ四十三大学が賛同を表明した。同大学は、二〇〇八(平成二十)年度入試での導入を目指し、さらに広く参加を呼び掛ける。

入試での相互利用 岐阜大が呼び掛け

同大学入試課によると、各大学では入試問題の作成に当たり、問題作成後、過去に全国の大学で類似の問題が出題されていないかかを検索する膨大な作業が行われている。作業の効率化を図り、良問の作成に集中できる環境を整えるのが大きな狙いで、同課は「良

来春導入 目指す

問を作ったにもかかわらず、過去に類似の問題が出題されていたため採用できないという大学側のシレンマがなくなる」と期待を寄せる。

同大学などが策定した要綱では、参加大学間で各大学の入試問題の過去問題をそのままの形で使用することも、一部改変して使用することも可能

43大学が賛同 消解のシレンマ問題作成

としている。

昨年十月末に全国の四百七大学に行った参加への呼び掛けに対し、先月三十一日の中間締め切りで、九州大学、お茶の水女子大学、岐阜薬科大学、名古屋市立大学、関西医科大学などの計四十三大学が賛同。京都大学、京都府立大学、慶応大学など十三大学が保留した。

制度の導入により、入試問題の予想の加熱が予測されるが、佐々木嘉三岐阜大学副学長は「最低目標の五十大学はクリアできる見込みで、問題数が多くなれば、傾向を読みづらくなると思う」と話す。

六日に賛同大学名を岐阜大学のホームページで公表し、三月三十一日も第二次の取りまとめを予定。それ以降も呼び掛けを継続する考え。